九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Development and evaluation of the Sedentary Behavior and Light-Intensity Physical Activity Questionnaire

田中, るみ

https://hdl.handle.net/2324/4474993

出版情報：Kyushu University, 2020, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏　　名：　田中　るみ

論 文 名：Development and evaluation of the Sedentary Behavior and Light-Intensity Physical Activity Questionnaire
（座位行動・低強度身体活動質問紙の開発と評価）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

［目的］
低強度身体活動は身体活動が困難な人々の健康に有益である一方、長時間の座位行動は死亡率の増加等のリスクを増加させる。これらの活動時間を測定するため、今回新たに座位行動・低強度身体活動質問紙（SLPAQ）を開発し、信頼性と妥当性について検討する。
［対象者と方法］
活動項目のアイテムプールは、2011 Compendium of Physical Activities、既存の身体活動質問紙の文献レビュー、11 人の低活動者へのインタビューを通じて行った。これにより 206 項目を特定し、活動の類似性により 58 項目に統合した。58 項目について、31 人の下肢人工関節術後患者と専門家委員会により項目の内容妥当性を評価し、17 項目を選定した。活動項目は家事・余暇・仕事・移動・セルフケアの 5 カテゴリに分類した。低活動者として下肢人工関節置換術後患者を対象とし、138 人が項目分析・信頼性・基準関連妥当性調査に参加した。対象者は再テスト信頼性のため、2 週間あけて質問紙に 2 回回答した。基準関連妥当性のため、低強度身体活動に対する感度の高い Active style PRO HJA-750 加速度計を装着した。この研究は、九州大学の倫理委員会による承認を得た（2019-126、2019-273）。
［結果］
112 人が分析対象者となった。平均年齢は 67.5±10.6 歳、79 人が女性だった。平均歩数は 4644±3187 歩/日であり、低活動な集団だった。項目分析を行い、床効果により SLPAQ-10 へ改訂した（座位行動：6 項目、低強度身体活動：4 項目）。再テスト信頼性は高い相関係数を示した（低強度身体活動：$\rho = 0.74$、$p < 0.01$；ICC = 0.70、座位行動：$\rho = 0.66$、$p < 0.01$；ICC = 0.69）。加速度計と質問紙間において、低～中程度の相関関係があり（低強度身体活動：$\rho = 0.43$、$p < 0.01$、座位行動：$\rho = 0.20$、$p = 0.03$）、Bland-Altman plots ではバイアスが見られなかった。
［結論］
SLPAQ-10 は既存尺度と比較し低強度身体活動に対する高い妥当性が見られた。本尺度は低活動な集団において許容可能な妥当性と信頼性を有しており、座位行動・低強度身体活動の研究に有用であると考える。今後、SLPAQ-10 の人工関節置換術後の患者以外の人々への適応性を調査する必要がある。